小倉百人一首五番

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の
声聞くときぞ秋は悲しき　猿丸大夫

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の
声聞くときぞ秋は悲しき　猿丸大夫

さるまるだゆう

読み

おくやまに　もみじふみわけ　なくしかの
こえきくときぞ　あきはかなしき

意味

山奥でもみじの落ち葉を踏み進みながら、
恋人を求めて鳴いているシカの声を聞くと、
秋の悲しさがより深くなるな

本書類は個人の楽しみのためにあるべきものですので、転載、配布等は禁止いたします。　http://100nin1shu.seesaa.net/